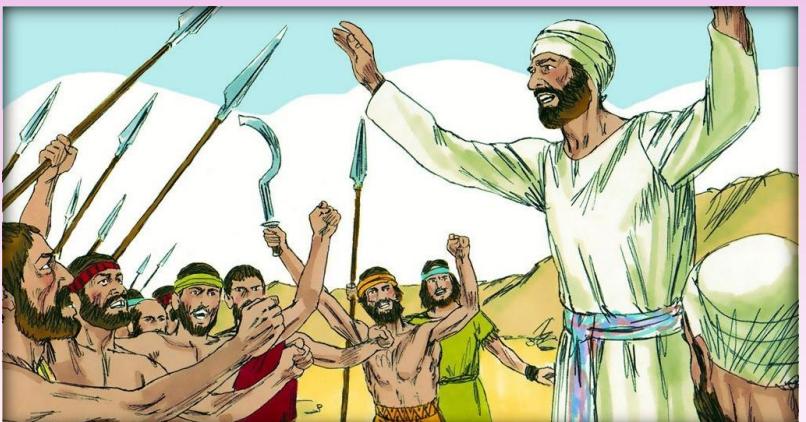
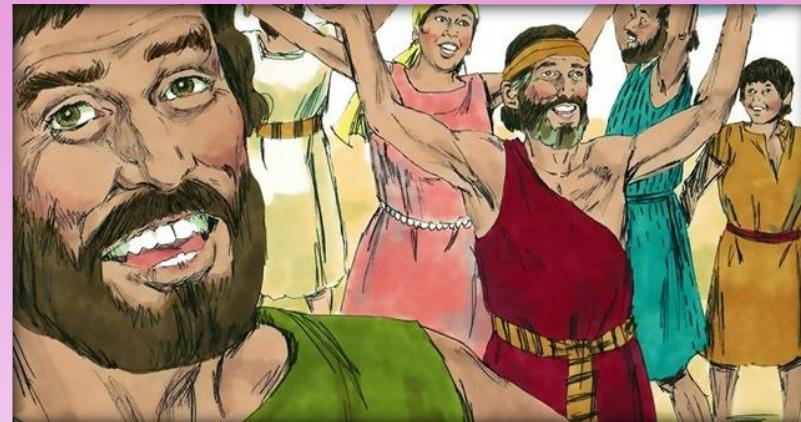
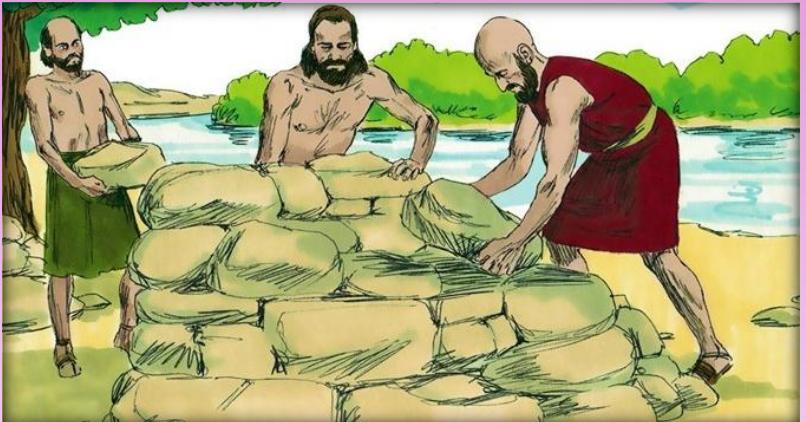
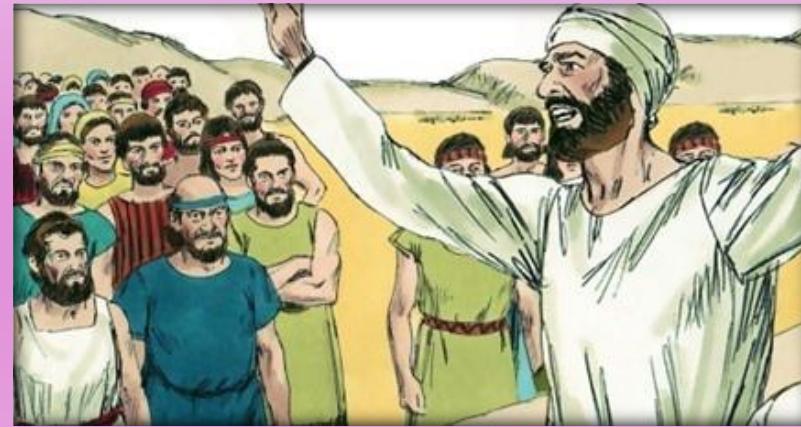
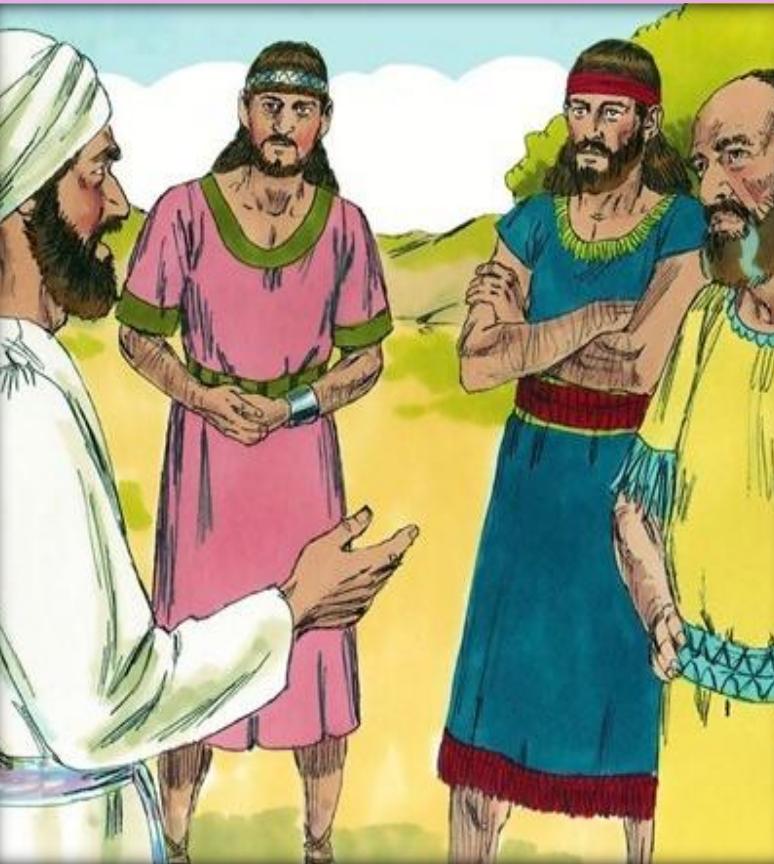
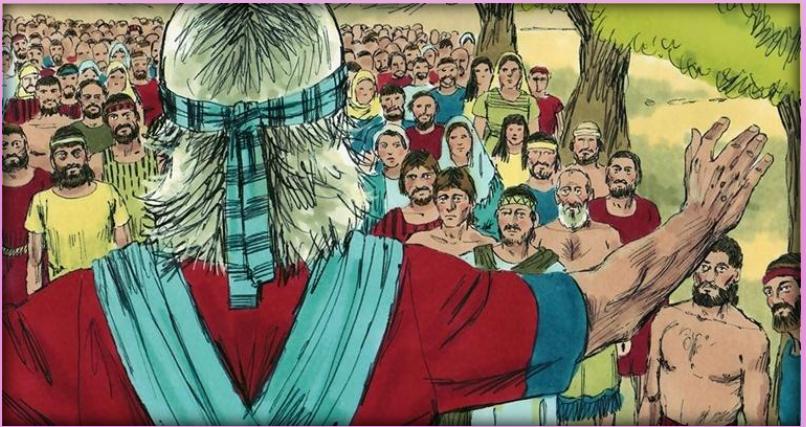


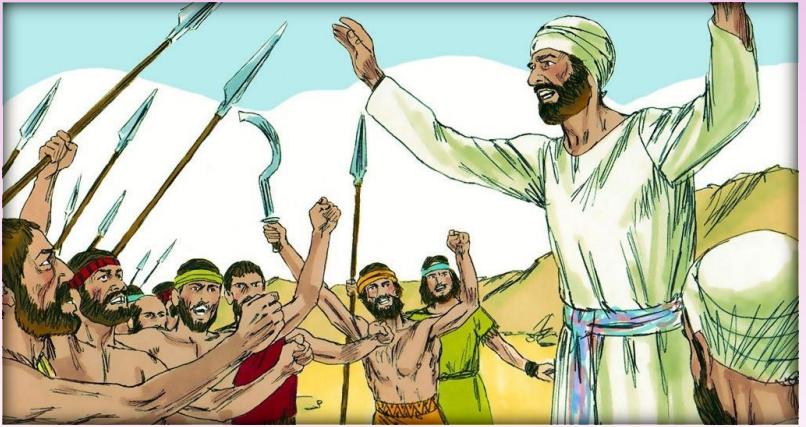
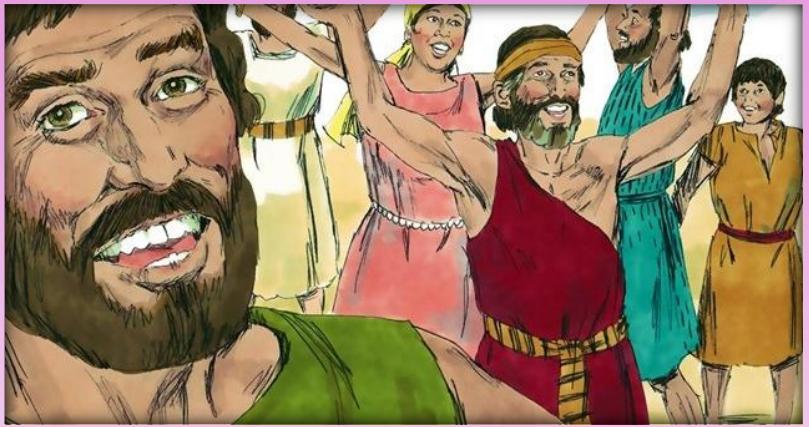
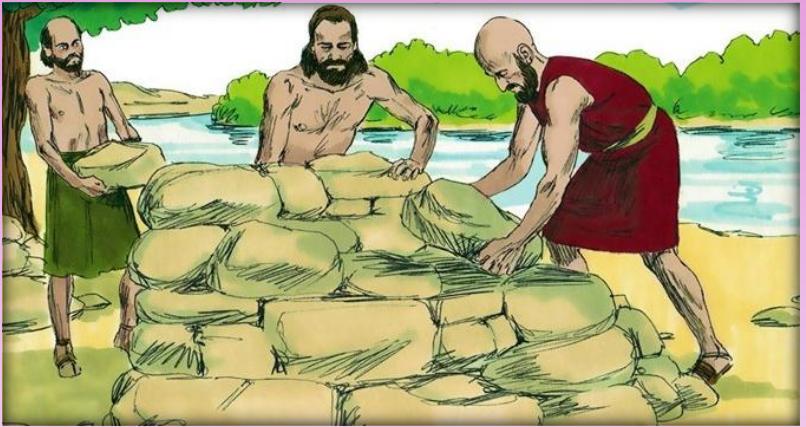
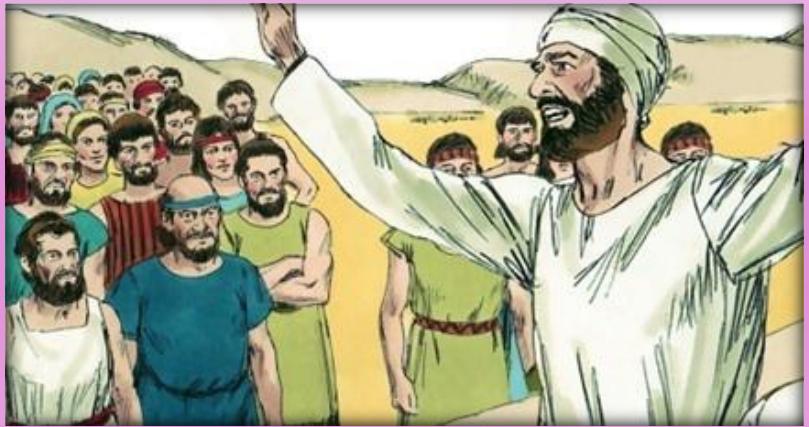
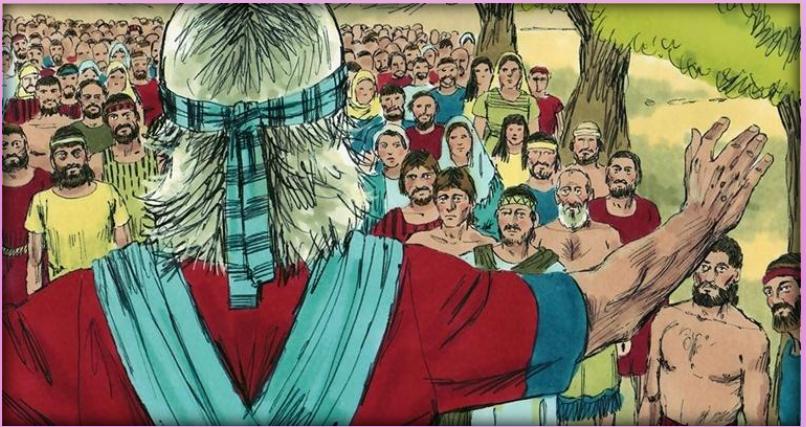
土地に住み着く



2025年 12月13日 第11課



柔らかな応答は憤りを静め／
傷つける言葉は怒りをあおる。
(箴言 15:1 新共同訳)



柔らかい答は憤りをとどめ、
激しい言葉は怒りをひきおこす。

(箴言 15:1 口語訳)

数年にわたる戦争の後、イスラエルはカナンを征服したが、その住民全員が追放されたわけではなかった。

東側を占領した二部族半（ルベン族、ガド族、マナセ族の半部族）は、征服を支援するためにヨルダン川を渡り、約束を忠実に果たした。

ついに別れの時が来た。ヨシュアは彼らを祝福し、神の道を歩み続けるよう勧めた後、彼らを去らせた。しかし、その別れは、イスラエルの民の結束を容易に破壊しかねない深刻な誤解によって影を落とした。



- ➡ 献身 (ヨシュア記 22:1-8)
- ➡ 非難・・・ (ヨシュア記 22:10-12)
- ➡ 過去に悩まされる (ヨシュア記 22:13-20)
- ➡ 柔らかな応答 (ヨシュア記 22:21-29)
- ➡ 紛争の解決 (ヨシュア記 22:30-34)

献身

ただ主の僕モーセが命じた戒めと教えを忠実に守り、あなたたちの神、主を愛し、その道に歩み、その戒めを守って主を固く信頼し、心を尽くし、魂を尽くして、主に仕えなさい。」(ヨシュア記 22:5)

ヨルダン川が部族間の分断をもたらすことになるため、ヨシュアは二部族半が信仰を守れるよう賢明な助言を与えた(ヨシュア記 22:5)：

主なるあなたの神を
愛しなさい

愛は私たちを神へと導くべき原理です。私たちが神を愛するのは、神がまず私たちを愛してくださったからです(1ヨハ4:19)。

御心に従って
行動しなさい

ヨシュアは、神と共に歩むことを選んだ者たちに期待される行動をこのように示している。

その命令に
従いなさい

従順は、神がなさったことを理解する感謝の心から自然に生まれる結果である。

彼にしっかりと固く
結びついていましょう

私たちは神に固くすがり、いかなる気晴らしもその結びつきを壊すことを許してはならない。

心から、全身全霊で
仕えなさい

私たちは、創造主に愛をもって進んで仕えるときに、真の目的と満足、豊かな人生を見出すのです。



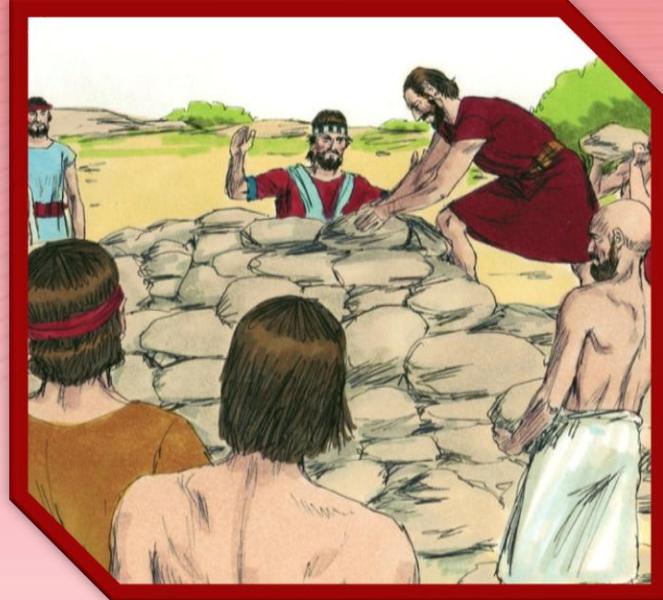
ヨシュア記 22:5、6 には、ヨシュアが帰って行く部族に主への忠実さを保つように訴え、彼らを祝福したことが記されています。私たちが一層互いのために祈り合ったら、教会における私たちの人間関係はどう変化するでしょうか。

22:5 ただ主の僕モーセが命じた戒めと教えを忠実に守り、あなたたちの神、主を愛し、その道に歩み、その戒めを守って主を固く信頼し、心を尽くし、魂を尽くして、主に仕えなさい。」

22:6 ヨシュアが彼らを祝福して送り出すと、彼らは自分の天幕に帰って行った。

非難・・・

ルベンとガドの人々、およびマナセの半部族は、カナンの土地にあるヨルダン川のゲリロトに着いたとき、そこに一つの祭壇を築いた。それは目立って大きい祭壇であった。（ヨシュア記 22:10）



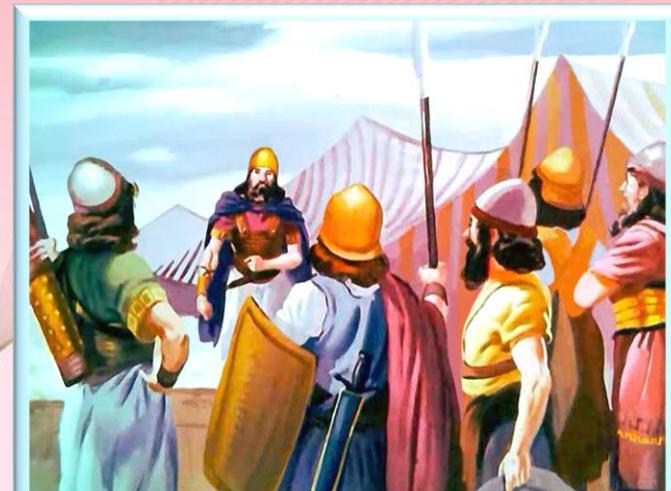
ヨシュアがヨルダン川の奇跡的な渡河を記念して建立した記念碑の近くで、二部族半は聖所の祭壇に似た祭壇を築いた（ヨシュ 22:10, 28）。

この行為は、聖所の全焼の供え物の祭壇以外の場所で犠牲を捧げることを禁じた律法違反と解釈されました（レビ 17:8-9）。



残りのイスラエル人は、この罪を根絶するために同胞を攻撃することを決めた（ヨシュ 22:12）。しかし神は、血なまぐさい内戦を防ぐために介入された。神は、証拠を全て揃えずに裁くことを拒み、疑わしきは罰せずの原則を適用し、同胞に弁明の機会を与えることを決めた人々を立てられた（ヨシュ 22:13-14）。

後になってわかったことだが、彼の唯一の過ちは、その意図を兄弟たちに伝えなかつたことだった…しかし、それは罪ではない。



イエスとパウロが、他人を裁いてはいけないと私たちに勧告したとき、彼らはどんなことに言及していますか。

ルカ**6:37** (新共同訳) 「人を裁くな。そうすれば、あなたがたも裁かれることがない。人を罪人だと決めるな。そうすれば、あなたがたも罪人だと決められることがない。赦しなさい。
そうすれば、あなたがたも赦される。」

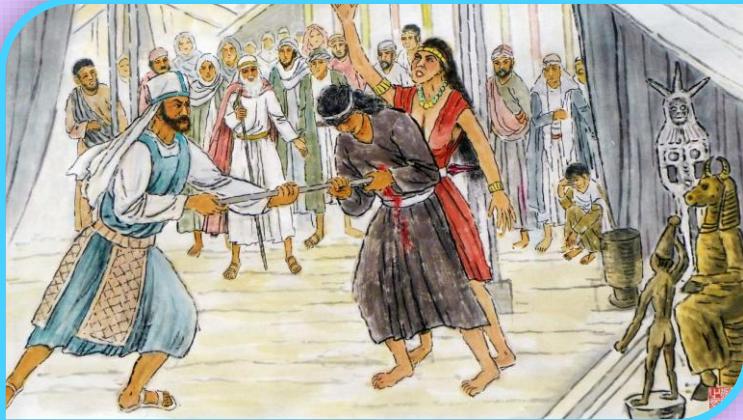
ヨハ**7:24** (新共同訳) うわべだけで裁くのをやめ、正しい裁きをしなさい。」

Iコリ**4:5** (新共同訳) ですから、主が来られるまでは、先走って何も裁いてはいけません。主は闇の中に隠されている秘密を明るみに出し、人の心の企てをも明らかにされます。
そのとき、おのれのは神からおほめにあずかります。

他人の動機について誤った結論に飛びつくのは、なぜ簡単なのでしょうか。

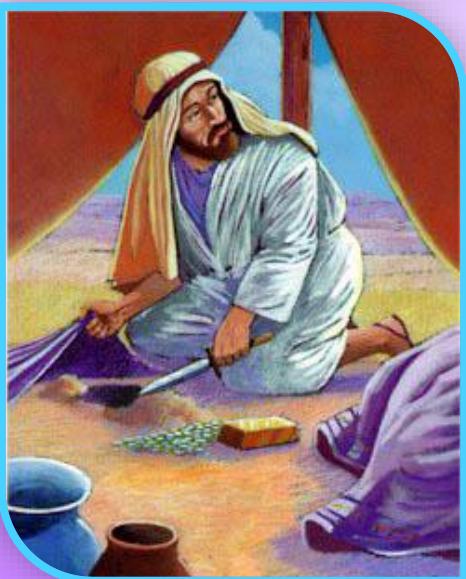
過去に悩まされる

「主の共同体全体はこう言う。お前たちが今日、イスラエルの神、主に背いたこの背信の行為は何事か。お前たちは、今日、自分たちのために祭壇を築いて、主に逆らっている。(ヨシュア記 22:16)



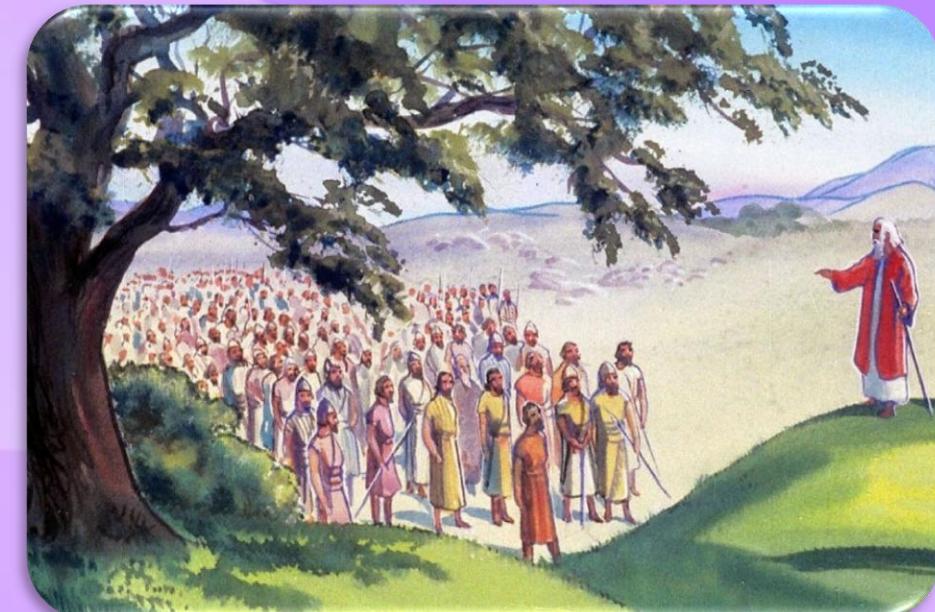
なぜフィネアスが調査委員会の委員長に選ばれたのか (ヨシュ 22:13-14) ?

大祭司の息子フィネアスは、バアル・ペオルでの罪を断固として阻止した (民25:7-8)。彼の演説では、この罪をアカンが犯した罪と結びつけ、二部族半が犯したとされる罪と同等であると主張した (ヨシュ 22:16-20)。



ファネスの言葉は理にかなっていた。新しく築かれた祭壇で犠牲を捧げれば、神はイスラエル全体を罰されるだろう (ヨシュ 22:18b)。

しかし、神は彼らが罪を犯す前に、この過ちを正す機会を与えられた。すなわち、聖所のあるヨルダン川の向こう側へ戻ることを提案されたのである (ヨシュ 22:19)。



私たちはみな、過去に良くない経験をしており、将来、その経験が同様の出来事に対処する仕方に影響を与えます。私たちの過去の悲劇が隣人に対する現在の接し方を決定づけないようにするために、神の恵みはいかに役立つでしょうか。

柔らかな応答

もし、わたしたちが主に背いて祭壇を築き、その上で、焼き尽くす献げ物、穀物の献げ物、和解の献げ物をささげたとすれば、主御自身が罰してくださるでしょう。(ヨシュア記 22:23)

ルベン族とガド族、そしてマナセ族の半部族は、非難された際、模範的な行動をとった：



イスラエル人が兄弟たちの祭壇建設の動機を知らなかったとき、彼らは次のように推測した：反逆、分離への願望、そして神の罰。

現実はこうだった：兄弟たちとの結束を保ち、イスラエル人による将来の分離を避けたいという願い

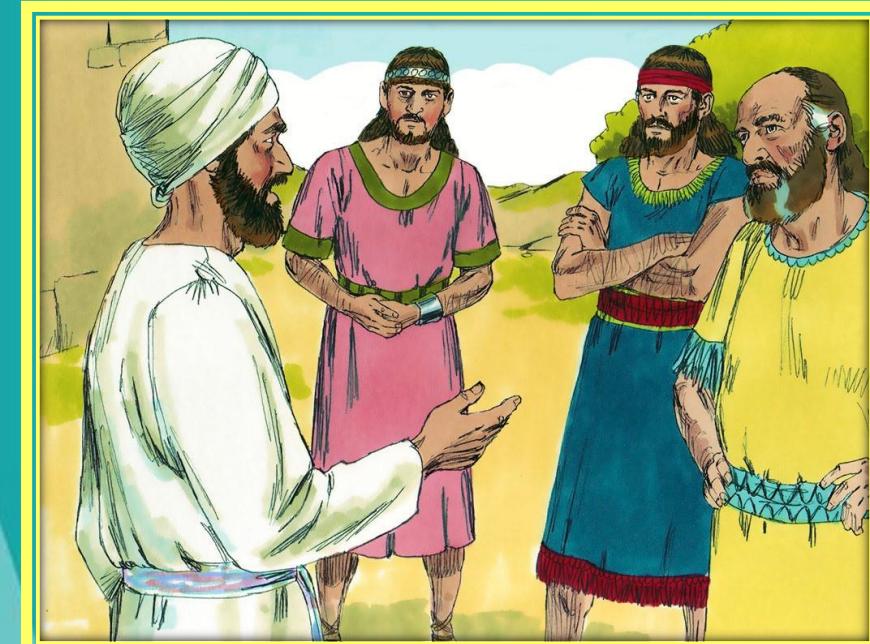
告発された部族は、告癈されたことに憤慨し、自分たちの防衛のために暴力的な反応を示す可能性もあったが、彼らが示した友好的な対応のおかげで、戦争は回避された。

彼らは告癈を黙って聞いた。

彼らは神を証人とした

彼らは罪を犯したなら罰を受けることを承諾した

彼らは真の動機を明らかにした



あなたは虚偽の非難にどう対処しますか。

あなたの態度を導くいくつかの原則を、
分かち合ってください。

靈的な示唆を得るために、

詩編37:3～6、34、37を参照しましょう。

37:3 主に信頼し、善を行え。この地に住み着き、信仰を糧とせよ。

37:4 主に自らをゆだねよ/主はあなたの心の願いをかなえて
くださる。 **37:5** あなたの道を主にまかせよ。信頼せよ、主は
計らい **37:6** あなたの正しさを光のように/あなたのための裁き
を/真昼の光のように輝かせてくださる。 **37:34** 主に望みをおき、
主の道を守れ。主はあなたを高く上げて/地を継がせてくださる。

あなたは逆らう者が断たれるのを見るであろう。

37:37 無垢であろうと努め、まっすぐに見ようとせよ。
平和な人には未来がある。

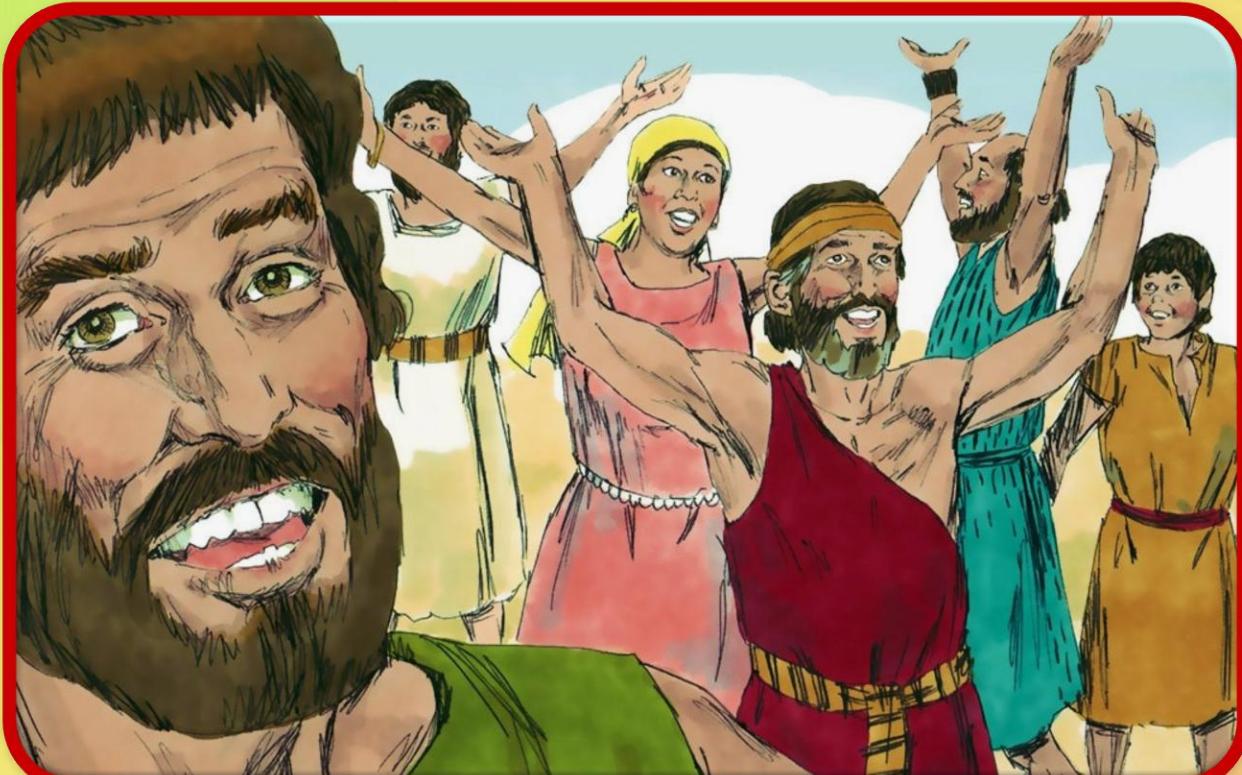
紛争の解決

イスラエルの人々は、このことを良しとし、神をたたえ、もはやルベンとガドの人々の住む地方に攻め上り、これを滅ぼそうと言う者はなかった。

(ヨシュア記 22:33)



告発が正しくないことがわかると、ピネハスとイスラエルの使節団は満足した（ヨシュ22:30-31）。また、イスラエル人は真実を知ると喜び、神を賛美した（ヨシュ22:32-33）。



彼らの例を通して、家族、教会、地域社会との関係において同様の状況で平和を回復するために必要な手順がわかります。

- 私たちの考えを伝える
- 早まった結論を出さない
- 行動する前に問題について話し合う
- 団結を達成するために犠牲を払う覚悟を持つ
- 非難に対して親切な返答をする
- 平和が回復した時に喜び、神を賛美する

ヨシュア記**22:30～34**を読んでください。この出来事全体から、紛争の解決と教会の一致を確保する方法について、どんな洞察が得られるでしょうか（詩編**133**編〔詩篇**133**篇〕、ヨハ**17:20～23**、Iペト〔ペテ〕**3:8、9**と比較）。

22:30 祭司ピネハス、共同体の指導者および同伴したイスラエルの部隊の長たちは、ルベン、ガド、マナセの人々の語る言葉を聞いて、良しとした。

22:31 エルアザルの子である祭司ピネハスは、ルベン、ガド、マナセの人々に告げた。「わたしたちは今日、主がわたしたちの中におられるることを知った。あなたたちは主に対してこの背信の行為をすることなく、イスラエルの民が、主の手にかけられるのを免れさせた。」なたがたは今、イスラエルの人々を、主の手から救い出したのです」。**22:32** エルアザルの子、祭司ピネハスと指導者たちは、ルベン、ガドの人々と別れ、ギレアド地方からカナンの土地のイスラエルの人々のもとに帰って、このことを報告した。**22:33**

イスラエルの人々は、このことを良しとし、神をたたえ、もはやルベンとガドの人々の住む地方に攻め上り、これを滅ぼそうと言う者はなかった。

22:34 ルベンとガドの人々はこの祭壇を、「わたしたちの間では主が神であることの証人」と名付けた。

「ガドとルベンの子らは、今その祭壇の上に、それが建てられた目的を示す碑文を刻んだ。それには、「これは、われわれの間にあって、主が神にいますというあかしをするものである」と書かれた（同22：34）。こうして彼らは将来の誤解を防ぎ、誘惑のもとになりそうなものをとり除くことに努力した。最も価値のある動機に動かされている人々の間でさえ、ちょっとした誤解から重大な問題がなんとよく起こることであろう。 [...]

まちがった立場から、非難や譴責によって救われた者はない。むしろそのために正しい道からいっそう遠く離れ、良心の声にさからって心をかたくなにするようになる人が多い。親切な精神、礼儀正しい、寛容な態度は、あやまっている人々を救い、多くの罪をおおうのである。」